

税の三
たたかい25

沖繩県の巻

那覇市長―信頼は民衆のなかに 徴税率97%を達成して市政守った

那覇市長選挙 占領下の圧政のなか
市民は瀬長亀次郎さんを選んだ

1956年10月、琉球政府主席の急死をうけて、当間重剛那覇市長(戦中、翼賛会沖縄県支部事務局長)がアメリカ政府によって主席に任命されました。市長選挙が公示され、1952年結成された沖縄人民党は第8回大会を開き、書記長の瀬長亀次郎氏を候補者に擁立しました。「ソ連の手先瀬長」「市庁舎に赤旗を立てさせるな」「電気も水道も止まる」……。すさまじい攻撃、手のこんだ宣撫の中、もしやの瀬長さんは、ダ



ありし日の瀬長亀次郎さん

ントツ1位で市長に当選しました。

アメリカの狼狽、うろたえる反人民の政界・経済界をよそに、11万市民の歓喜。この一方で、アメリカ占領政策容認派は、「市の台所を枯渇させてやる」と息巻き、市会議員30人のうち3人だけの人民党議員を除く野党は、民主的に選ばれた市長にたいして、なりふり構わぬ「瀬長追放」に走るのです。「戦災復興事業補助金の打ち切り」「市の3100万円」の財政凍結」「琉球銀行など沖縄金融協会の融資ストップ」は、着工中の工事を中断させました。この策動で、アメリカ占領軍は抑圧と干渉の先頭に立ちました。

あふれるかえる市議会傍聴者
徴税97%の快挙

瀬長さんは、「徴税の民主化」を大きな公約にしていました。市政の

破綻を狙う陰謀に対する答えは何か。

それは「市民の団結の力」と、毎月1万人規模の市民集会を開き、前任の当間市長時代の腐敗ぶりを、全市民に知らせ、調査の結果を公表しました。たとえば映画館だけで市民税の滞納が200万円とか、Aホテルだけで、水道料金が3年分未納だとか、市有地を借りていながら使用料未払いの民間企業とか、こうして生み出される「余分」の金が3千万円を突破。もちろん一般市民も市民税などの未払い分の積極的な納税は、瀬長市長に投票した人もしなかった人も協力しました。

このたたかいのかげで、私腹を肥やしていた前助役などが告発されていきました。市民は、当間市政と市の高級官僚と買弁企業者どもの腐敗不潔ぶりを知り、働く市民の利益と生活の安定のために、瀬長市長を守り抜く決意を固めるのでした。徴税は97%と、かつて経験したことのない成功をおさめ、自己財源で賄えるだけの財源を確保して、「祖国への復帰まで乏しきに耐え、スクラムを組もう」と、断固として不正な仕打

ちに抵抗するのです。これまでに人の傍聴者もなかった市議会議場は常に外にあふれるほどでした。

市民への絶対的信頼が事態を打開

こうした中、市庁舎に赤旗が立つどころか紫色の2本の市旗は以前と同じようにへんぼんとして翻り、一時ストップしていた架橋工事、ポーターミナル工事などが大々的に再開され、「その活気は、占領軍・基地権力者の脳天を打ち砕くに十分であった」そうです。

市議会議員の中からも中立系議員が現れ、瀬長不信任案は否決されるのでした。瀬長憎しの親米反動勢力は、法律を変えて追放。10カ月と20日の瀬長市政は終わりました。

しかし、やり直し選挙でまたもや市民派が勝利しました。

当間カイライ政府の県民に対する弾圧と干渉を払いのけ、真の独立のたたかいへと沖縄県民は前進するのです。瀬長亀次郎さんの市民への絶対的な信頼、公正な政治、税金の道理ある集め方・使い方は、私たちに励まします。(杵渚智子記)